特集

新潟大学への想い ～旅立ちの日に～

卒業・修了する学生からメッセージ

入学から4年間・6年間、いろいろなことがありました。
新潟大学を旅立つにあたり、
卒業生・修了生からメッセージを集めました。

卒業にあたって

■教育人間科学部学校教育課程教科教育コース国語教育専修
大滝　優果

この四年間を振り返ると、私はなんて幸せな時間を過ごしたのだろうと思います。私は、仲間に恵まれ、環境にも恵まれました。まなび屋という活動を続けるなかで、本音で語り合える、信頼できる友達ができました。また、やりたいことに挑戦する機会も与えてもらい、多くの人の協力を得て実現させることができました。

まなび屋を飛び出して活動することもやってみました。そして、気付いたことは、勇気を出して一歩踏み出すと新たな世界が目の前に広がるということ、そして一歩踏み出すことはそんなに怖いものではないということです。

私は、まなび屋の仲間、ゼミの仲間、先生方、NPOの方々、家族・・・多くの人に支えられ、刺激を受け、成長させてもらいました。私を取り巻くすべての人に心から感謝しています。ありがとうございました。

春には大学院に進学します。専門科目についての見識を深め、研究に励むとともに、自分らしく、2年間を充実したものにしたいです。

かけがえのない仲間と　本人は前から2列目左端

本日、天気晴朗なれど

■人文学部情報文化課程
高橋　陽子

文コミの根城、総合教育研究棟6階から望む日本海が私は好きである。2階、3階と上るにつれて、空と海を分ける青い帯が少しずつ姿を現してくるのが階段の踊り場から見える。それを眺めながら6階まで自力で駆け上がり、よろめきつつゼミ室に飛び込むことも少なくなかった（体力ない）。若干息を切らしたまま先生や仲間達との議論は踊る。

山に近い平野部の町で育った私にとって、あの光景は牧歌的ながら何がしかの夢想を誘うものであった。世界は広いんだぞー、目を開けー、と言われている気がした。波頭が高く荒れた嵐の海も、青く凪いだ光る水面も、そこを進んでいく白い船も。大学の4年間が私に見せてくれた厳しさ、自由、新しい知識と経験の兆し、それらをあの踊り場からの眺望は表していたように思う。晴れた日には水平線の向こうに佐渡の島影が浮かび上がる。この春、またひとつ遠くへと進み出ていく先の、あちらの天気はいかがだろうか。

旅行先にて友人と　本人は右側

大学生活を振り返って

■法学部法政コミュニケーション学科
添田　真由子

「大学生活は人生の夏休みだ」。私がアシスタントをしていた賢人会議に講師としていらしたOGの先輩の言葉だ。今、大学生活を振り返ってみると、本当にその通りだと思う。

私は陸上部に所属し、学部・学年を超えた幅広い交流をすることができ、そこで刺激を受ける出会いがいくつもあった。時には衝突することもあったが、一緒に泣いたり笑い合うことのできる仲間に出会えた。毎日の練習や大会の運営、イベント、コンパを通じて、その仲間の大切さに気付くとともに、自分の価値観や視野を大きく広げることができたと思う。

また、3年から始めた行政学のゼミでは、浜コンやゼミ旅行などのゼミ以外の様々な活動により、専門的な知識はもちろんのこと、それ以上に多くのことを学ぶことができた。中でも、新発田市の条例検討会に参加したのが記憶に新しく、とても貴重な経験であった。

いつまでも続くと思っていた、この夢のような夏休みがもうすぐ終わりを迎える。この4年間、本当に充実した日々を過ごすことができ、人間的に大きく成長できたと思う。両親をはじめ、お世話になった全ての人々に感謝したい。

ゼミ生とのシンガポール卒業旅行　本人は右から2人目

大学生活を振り返って

■経済学部経済学科
江口　麻衣子

大学生活は、何にでも挑戦することができる貴重な時間である。

大学4年間は、楽しさ故にあっという間に過ぎさった。この4年間、アルバイト、ゼミ、サークル、資格試験、就職活動、旅行、飲み会そして飲み会と、色々な事をそつなく、だらだらこなしていた気もする。が、今振り返ると、メリハリのある、楽しい学生生活を過ごせた。そんな生活を通して卒業する今、知らず知らずに、学べたことは沢山ある。

特に対人関係では、様々な価値観をもつ良い友人に出会えた事を誇りにさえ思う。良くも悪くも、刺激し合える仲間に出会え、私の中の視野や価値観も広がっていった。そして、沢山の楽しい思い出も…☆

大学生活では、思う存分、何でもできる貴重な時間が沢山ある。失敗も後悔も多々あるが、全部含めて、自分が良しっと思い行動した事は、自分を成長させてくれた貴重な経験に繋がったと思う。

新潟大学で過ごせて良かった。本当に、皆、有り難うっ!! また会おうねっ!

大学生活の思い出

■理学部地質科学科
五十嵐　雄大

4年間、未熟な私を支え続けてくれたのは、何と言っても地質科学科の素晴しい仲間達でした。人数が少なく、泊りがけ実習が多かったため、学科の仲間とは非常に親しくなれました。試験期間には、みんなで徹夜で大学に残って、試験勉強やレポートに励みました。また、何かにかこつけては誰かの家に集まり、飲みながら語り明かしました。他にも、1年秋、初の泊りがけ実習。2年春、「地学ハイキング」。3年春、中国～四国への見学旅行。3年夏、1ヶ月かけた実習。どれも、大切な仲間と過ごした大切な思い出です。仲間達は私に、かけがえのない、自分の居場所を与えてくれていました。

素晴しき仲間達に、この場を借りて感謝の言葉を言いたい。みんなに会えて本当によかった。辛いことも、みんながいたから乗り切れた。私はみんなを生涯忘れない。縁があれば、またどこかで飲み明かそう。仲間達よ。本当に。ありがとう。

本人は右側

成長するためのヒント

■医学部医学科
櫻井　可奈子

6年間が終わってしまった。あっという間だった。でも6年という月日は決して短い時間とは言えない。入学式のあの日の自分と比べて、今の私は少しは進歩しているだろうか・・・自信がない。

大学生活で多くの人との出会いがあった。様々な人生を過ごしてきた人と様々な話をし、心に残るたくさんの言葉や場面と出会った。特に思い出されるのが臨床実習で出会った患者さんたちの顔だ。自分自身の体や心に悩みを持ちながら必死に頑張っている患者さんが、他人である私に対して、いたわりの言葉をかけてくれた時、失敗を励ましてくれた時、温かい気持ちに触れた時、私はもっと成長しなくてはいけないとつくづく感じた。もっと強い人間にならなくてはと反省する。患者さんは、人生の先輩であり、先生であり、本当にたくさんの事を学ばせていただき感謝の念でいっぱいだ。本当にありがとうございました。6年間で自分がどのぐらい成長したかは実感としてつかめないが、自分が成長するためのヒントは、身のまわりにたくさんちりばめられている。一つ一つの思い出を大事に温めて、これからの人生に生かしていこうと心に刻む。

勉強会の仲間達と…（ボンの前）　本人は左から2人目

大学生活を振り返って

■医学部保健学科
原田　正紘

国家試験を間近に控えた今、卒業するということが急に現実味を帯びてきました。ちょっと前までは卒業生を送る立場だったのが、気づけばいつの間にか送られる側に… 4年間が本当に短く感じられます。

思い返せば私の大学生活は、部活動なしには考えられないものでした。入部したての頃は勉強の合間に練習だったのが、いつの間にか練習の合間に勉強になり、学校にいるより道場に居る時間が多い日も数知れず…。学生として褒められたものではないですが、これほど熱中できることに出会うことができて本当に良かったと思っています。また、部活動を通じて個性的な先輩や後輩、何でも話すことが出来る同輩に出会うことが出来ました。部の仲間と過ごしている間は、どんなに学校生活が忙しくても時間を忘れることが出来るひとときでした。

私が卒業をむかえて、こんなにも充実した気持ちでいられるのは、部の仲間のおかげだと思っています。みんな本当にありがとう。

学部戦後　本人は前列右から2人目

旅立ちのとき

■歯学部歯学科
築山　友紀

振り返ると、あっという間の6年間だった。

桜満開の入学式でちょっぴり緊張しながら、これからどんな6年間を過ごし、卒業の頃にはどんな大人になっているのだろうと思い描いたものだった。それからの日々は、良き友に巡り合い、そのときそのときを精一杯、楽しんで過ごすことが出来た。試験前に皆で一緒に勉強したり、歯科技工操作を教えあったり、夜遅くまで実験したり、お酒を飲んで騒いだりと沢山の思い出が蘇ってくる。各学年50～60人前後という人数もあり、みんなとても仲が良かったと思う。特に出席番号が前後の人とは、歯科相互実習で歯科麻酔の掛け合いもしたほどだ（笑）。そして気付けば、ああだ、こうだと言いながら、着実に歯科医師への階段を1段ずつ登り、ここまで来ていたことに感慨を感じる。これから歩む道は人それぞれだけど、いつまでも切磋琢磨しあえる仲間でいたいと思う。36期バンザーイ!

歯学部女子ロッカーにて　本人は前列右から2人目

四年間を振り返り

■工学部情報工学科
兼子　陽市郎

新潟大学に入学して4年が経ち、卒論やこの原稿を書いている自分を見詰め直してみる。この4年間で私は、本当に様々な知識や経験を得ることができた。それはやはり多くの人との出会いがあったからだ。これまで接してきたあらゆる人との交流は、自分を様々な面で成長させてくれた。学科、部活動、私生活、それぞれ違う環境での体験や人との交流があったからこそ今の自分があると思う。そこでは自分の財産となる思い出も作ることができた。また、それらの環境において学んだ1つの教訓がある。何をやるにしても物事に対する意欲を持つことの大切さである。この意欲を持つという姿勢があることで、その分野における伸びを促進させてくれるということを実感した。

私は卒業後大学院に進学するが、この教訓をこれからの生活で十分に生かしていけるように意識し、残り少ない学部生としての生活を有意義に過ごしていきたいと思っている。

軽音楽部の夏合宿にて　本人は一番後ろ右から3人目

大学生活の思い出

■農学部農業生産科学科
渡邉　千香

新潟大学での4年間を振り返ると、なんと濃い時間だったのかと思う。とくに2年生になってからは本当に楽しい大学生活だった。2,3年生の間は部活にバイトに遊びに多くの時間を使い、4年生になると就職活動、教育実習、卒業論文におわれて忙しい日々を暮らした。4年間の中ではもちろんつらかったこともある。1年生のときは不慣れな1人暮らしで心細かったし、4年生のときは卒業論文の勉強がうまくいかずによく悩んだ。つらいときには友人が救ってくれた。印象深いのは4年生のときに勉強がうまくいかず、つい「私はあまり勉強に向いていないから、大学には来ないほうがよかったかもしれない。」と友人にこぼしてしまった時の一言である。「本当に大学に来ないほうがよかった? 大学に来て楽しくなかった?」友人のその言葉によって、忘れていたたくさんの思い出がよみがえってきた。新潟大学に入ってよかった、友達にあえてよかった、いい思い出がたくさんできてよかったと。ここで過ごした4年間は今後、私にとって大きな糧となってくれると思う。

本人は後列左端

たくさんの感謝を胸に

■大学院教育学研究科学校教育専攻障害児教育分野
武田　守宏

2年間の大学院生活も終わりを迎えようとしている。思えば内容の密な2年間だった。

私は大学院1年生より、教育相談や学習支援ボランティア、軽度発達障害のある子どもの会でのボランティアなどに携わってきた。この中で、私は様々な子ども達や親御さん、同じ分野に関わる方々と出会った。これらの人々と活動を共にする中で、私はたくさんのことに気付くことができた。例えば、それは一人一人の個性に合った支援を実践することの大切さ、他者を敬うことの大切さである。これらの出会いや経験が、院2年間で私を大きく育て、飛躍させてくれたと感じている。

来年度からは新社会人として教育現場で力を尽くしていくことになるが、先生から教えて頂いたこと、先輩や友人、後輩から学んだこと、そして上記のことを胸に新たな一歩を踏み出したい。今まで自分を温かく見守り、接して下さった方々、ありがとうございました。そして、父親を亡くして以来、支えあってきた母親と兄へ、・・・・・・ありがとう。

本人は後列左から3人目

修了にあたって

■大学院保健学研究科
村田　冬樹

本当に多忙な2年間ではありましたが、わからなかったことを明確にする、最先端の研究に関わっている、研究に対して責任を負う、という経験が今後の役立つのではないかと思います。とりわけ本大学院の先生方や工学部の方々には、多くのご支援、ご助力を頂き本当にありがとうございました。

ときに、新潟は豊かな自然に囲まれ、四季を最高に満喫できる素晴らしい地域である反面、一昨年の水害や大地震に続いて、昨年末の大停電と昨今はたくさんの災害がありました。おそるべし新潟…新潟市も来年4月には日本海側初の政令指定都市になるということで、自然災害にも負けず地の利を生かした新しい新潟を新潟大学の学生、卒業生、教職員のみなさんで育てていきましょう。

本人は前列右端

一生の思い出

■大学院現代社会文化研究科
盧　守助

ほぼ6年前、私は上海の出版社を休職し、留学のため日本へ来ました。当初は日本語が分からないこと、また経済的困窮のために、研究に専念できず、苦境に陥りました。私は自分が順調に修了できるかどうかに疑問を抱きました。しかしそのとき、人文学部の先生方が私に手厚い配慮と援助を与えてくださり、私は深く心を打たれました。6年間に、懐かしく思うことは数えきれないほどです。その中でも、最も忘れ難いのは指導教官、井村哲郎先生から指導して頂いたことです。論文を出す都度、先生は丁寧に細かく添削してくださいました。日本語の表現を除いて、論理的、研究方法について具体的にコメントされており、その一面の赤ペンの筆跡を見て、私はいつも魯迅先生の名作「藤野先生」を思い出しました。魯迅先生と同様に、私は日本の先生方からの恩恵に感銘しています。日本に留学した経験は私の一生の宝であり、一生の思い出でもあります。帰国したら、私はこの6年間の感想を中国で語りたいと思います。

佐々木充先生のゼミ教室にて　本人は後列真ん中

Living in Japan

■大学院自然科学研究科
Evelyn Matekwor Ahulu

"How did you become interested in Japan? And why Japan?" These are two questions people (both Japanese and non-Japanese) frequently ask of me.

I am Evelyn Ahulu from Ghana. After my experiences with my high school mathematics teacher who happened to be Japanese, I became more interested in learning about and possibly even visiting Japan during my lifetime; little did I expect it would happen so soon. Thanks to the Japanese government for giving me the opportunity to study here for the past 5 years.

I have been through many experiences, faced new challenges, met many different people and learned many things. The people of Japan are very friendly, polite and kind. Everyone has tried their best to make life very easy and comfortable for me and for that I am really grateful. Most of the things that I was not familiar with such as eating raw fish have now become a part of me. In fact I find raw fish a delicacy and look forward to introducing it to my friends and family when I go back home. I liked the cleanliness serenity, calmness, silence and feeling of safety as well as the way things are competently and promptly taken care off. In school, I discovered that both students and lecturers are extremely dedicated, active and outgoing most of the time and also enjoy to socialize. I found it amazing that in spite of being one of the leading countries in technology, tradition is still alive in today's modern Japanese society, and that is one of the reasons why I like Japan. There is a respect for the old way of doing things as well as respect for old age and for each other. This is what really has me interested in Japanese society. In a way it identifies with the way of doing things in my country. I have throughout my stay been very enthusiastic about learning Japanese language and I am very happy that I am able to survive most situations without the need of an interpreter.

Aside studying I have also had many opportunities to see other parts of Japan. I have been to Okinawa, Kyoto, Fukuoka,Shimane, Himeji, Sado island and Osaka. The landscape, the colours, particularly the mountains with snow on their tops and beautiful forests are so different from home and very therapeutic. I enjoyed going out with my lecturer and other students to collect soil samples etc. from Nagaoka because of the wonderful company and beautiful scenery along the way. I found it amazing at how much of the japanese heritage has been preserved. My favorite site was Nanzen-in in Kyoto. There was something about the place that lifted my spirit high above the pure green tinted leaves of the garden trees. The pond rippled gently with each tap of the overhanging branch and seemed to echo the age and wisdom of its wooded wonderland. The magnificent castles such as the Himeji-jo in Himeji, and Matsue-jo in Shimane are a few of the fascinating sites I have been privileged to see. In Okinawa the vegetation and climate made me feel like I was back home in Ghana and that was intriguing.

Generally I have enjoyed my stay here in Japan very much. Although I shall soon go back home, I think life here will be in me for good and I shall share my experiences with others who might not have the chance to ever visit. Thank you all for your kindness.

本人は右側

新潟大学を卒業・修了するにあたっての思い

—何より成長が嬉しいことだ—

■大学院医歯学総合研究科地域疾病制御医学専攻
曹　鵬宇

入学の喜びが昨日のことのようにまだ沈みきれないうちに、卒業の感慨が既に芽生えてきた。それほど長く思った4年間の月日はあっと言う間でした。"順調に卒業するよう"一入学当初のその強い願いと随分苦労し続けた夢もない奮闘の日々は決して忘れたこともない。学問という世界は、あまりにも博大そして厳しい世界だということもその短い試練から覚悟してきた。"あなたは研究者として世界に通用しない!"と何度も先生に叱られた。でも、今振り返ると8本の論文を出せた私にはその叱りがなければ今に至る成長はないでしょう。先生、本当に有難うございました。

まだまだ未練だと深く感じるのですが、責任感を感じ始める三十代の私には決して躊躇うことが許されない。医療において中国と日本、そして中国と米国の格差を一日も早くなくすために、先進である国々の健康水準を追いかけ、追い越すために、今から、世界に通用する一人前の研究者として全力を尽くして行かなければならない。ずっとご指導応援してくれた先生方、是非これからも見守り続けてください。

新潟大学でさらに成長ができて何より嬉しく思い、感謝したい。間もなく日本を去っていくと思えば思うほどそれだけ親近感を感じています・・・